

第36回復興推進委員会議事要旨

1 日時：令和3年3月1日（月）10：00～11：30

2 場所：テレビ会議開催

3 出席委員：

伊藤委員長、秋池委員長代理、岩淵委員、菊池委員、白根委員、白波瀬委員
田村委員、中田（ス）委員、松本委員、高橋岩手県東京事務所長（達増委員代理）
千葉宮城県東京事務所長（村井委員代理）、鈴木副知事（内堀委員代理）

4 議事要旨：

（1）「「復興・創生期間」後における東日本大震災からの復興の基本方針」の改定案について復興庁から、「「復興・創生期間」後における東日本大震災からの復興の基本方針」の改定案について説明があった。

（2）意見交換

福島県（鈴木副知事）からは、「第2期復興・創生期間における ふくしまの復興・創生に向けて」、岩手県（高橋岩手県東京事務所長）からは、「10年間の復興の取組と今後の課題」、宮城県（千葉宮城県東京事務所長）からは、「「宮城県震災復興計画」の検証及び第2期復興・創生期間における被災地の復旧・復興のための施策・事業について」に基づいて、報告・意見があった。

続いて、委員からは、次のような意見があった。

○ 復旧に努力してきたということはわかるが、「創造的復興」については、見えないところがある。全体として、復旧で止まっているような気がするので、復興庁の継続にはそういう意味があると思う。また、今後ハードの維持管理をどうするかについて方針がないと、地方は大変になると思う。

○ 産業経済面で象徴的な政策を打ってほしい。一つのアイデアだが、海外からの渡航が再開する際に、東北について、他地域に先駆けて再開することを検討できないか。

○ 被災地の首長も、自分たちの足で立ち上がって頑張っていくという思いで旗を振られている。引き続き、国際教育研究拠点を始め新たな生業を東北各地に呼び込むことへの支援、農林水産業へのサポートなどをしていただければありがたい。

- 先日、大きな地震があったが、新たな地震が起こることで心のストレスがかかることがある。もう一度被災者の心のストレスに向き合う必要がある。また、10年経つと訪れる人も少なくなり、被災者が孤独感を味わうことが多くなる。国民運動として被災地を忘れないという運動を立ち上げる必要がある。

さらに、個々の復興の速度に差が出てくるので、もう被災者ではないという方々に対しては新たな人生を見ながら進んでいけるよう盛り上げていく、という観点も必要である。
- 子供の復興については、まだまだ復旧の段階で終わっている可能性があるのではないか。今後とも、子供への支援を忘れないようにしてほしい。また、新型コロナウイルスや先日の地震が被災地にも影響を与えており、被災者の問題点や悩みを拾い上げ、それを解決できるような方策を今後も取っていただきたい。
- ハード事業は計画を立てて取り組めば進んでいくが、事業の創出や心のケアなど、ソフト面の復興はまだまだ終わるところがないと思う。また、今後の人口減少や過疎化の中で、どうやって今までの取組を維持できるか、支援していくことも大事。
- 被災自治体の状況はそれぞれ違うので、先行した経験を全体として共有するシステムの維持が重要。また、地域のコミュニティを再生するため、後継者となる子供たちをいかに地域が支えていくかという視点が重要であり、サポートをお願いしたい。
- 今回の震災において、財源を確保して国全体が一丸となって復興する、というモデルができた意味は大きい。日本モデルとして世界的に発信できる可能性もある。
- 最初の段階ではハードの破壊が非常に激しく、時間がたつにつれて心のケア等のソフトの問題が重要な問題としてでてくる、ということが想像できなかったのは反省点。

ただ、被災地が経験したことは日本のこれからを考える上で参考になるという、最初に設定した問題意識は間違っていなかったと思う。もう一回これまでの10年を振り返って、いろいろな形で発信できていければと思う。